

国際交流学科 4 年

留学先：イギリス・サセックス大学

留学期間：2023 年 4 月～2025 年 1 月

交換留学から帰ってきて改めて 10 ヶ月を振り返ると「この先絶対に忘れることのない、これまでの人生で一番濃い時間を過ごせた」と自信を持って言えます。そう言えるのも、数えられない楽しかった思い出と、その裏にある悔しい思い出と、それらを乗り越えてきたからだと思います。私が一番苦勞したのは、やはり”言語の壁”です。日本でやっていたリスニングは得意な方だと思っていましたが、イギリス人とのリアルな英会話には全く歯が立たず、相手が何を言っているのかさっぱり分からないというところから始まりました。勿論スピードやアクセントに慣れていないというのがありますが、学校では習ってこなかったイギリスならではの”英語”に苦戦しました。例えば、人と会った時には「How are you?」というのが当たり前だと思っていましたが、最初に泊まった Airbnb の家族と会う度に「Are you alright?」と聞かれました。「え？大丈夫だけど、私何か変?」「何て返せばいいの?」と思いましたが、イギリスでは「How are you?」の代わりに「Are you alright?」と聞くのが主流だったのです。他にも「Thank you」を「Cheers」、「like」を「fancy」など。このように習ってこなかったけれど、イギリス人が使うリアルな英語を知り、使えるようになったことが留学で現地に行ったからこそ得られたことだと感じます。行く前からかなり不安だった Speaking は案の定一番苦勞しました。数十人いる留学生の集まりなどで、「確実にこの中で私が一番英語喋れないな」「逆によくこれでイギリス来たな自分」と思うことが何回もありました。これまで、人前で英語を喋るとなったら、原稿を作ってそれを読み上げるか、覚えるかをしていました。前半の語学のコースで、一人 5 分くらいで読んできた本の内容を話すという課題でも、私は急いで原稿を作って読み上げようとしていました。すかさず、先生に「読み上げないで、簡単な英語でもいいから自分で文章を組み立てて話してみて」と言われ、そこから少しずつ原稿がないと英語が喋れないという不安がなくなっていき、アドリブでも喋れるようになっていきました。さらに、学部の授業が始まった後半から現地の学生とかなり仲良くなり、一緒にいることが増えました。その子たちが日常的に使う英語や、インスタの DM などのやり取りで使うスラングや略語、相槌はかなり新鮮で、長期で留学に行ったからこそ得られたことだと感じます。「あの子がこの前こうやって言ってたから、じゃあそれを次はこの人に使ってみよう」と積極的にアウトプットするようにしていました。それを繰り返すことで自然と自分のモノになっていたのだ、と日本に帰ってきてから、外国人と話す時やテキストする時に自然に使えるようになっていた時に実感しました。

また、この留学を通してできた世界中にいる友達には人生の財産です。まず、クラス初日でのクラスメイトの多種多様なバックグラウンドに驚きました。日本にいるとどうしても似たようなバックグラウンドの人としか関わる機会がないので、自分も周りと同じようにならないと、とってしまいがちですが、留学中に会った人たちを見ていると、年齢や子供の有無に関係なく自分の夢に向かってチャレンジしている人が多く、「こんな生き方もありな

んだ」と生き方に対する視野がかなり広がりました。今後、世界中で留学中に会った友達と再会することが海外に行く一つの楽しみでもあります。

生まれてから初めて親元を離れ、一人で海外に行き、想像もできない世界に飛び込んだことで、今まで自分はいかに親や周りに支えられて生きてきたかを実感し、改めて自分がいた環境への感謝が芽生えました。また、日本の素晴らしさに改めて気づくきっかけにもなりました。「日本人です」というと、「日本食大好き」や「日本にずっと行ってみたいと思ってる」など、多くの人が日本に良いイメージを持ってくれていて、日本人であることを誇りに思える瞬間が沢山ありました。「日本だったらこんなこと起こらないのに」と日本の便利さや、正確さ、真面目さが恋しくなることも勿論ありました。一方で、イギリス人や外国人のいい意味でも悪い意味でも”テキトー”なところや正直なところが、私にとっては心地よく、生きやすかったです。留学前から海外で働くことに興味はあったのですが、英語も喋れないし、自分が海外に向いているかもわかりませんでした。しかし、この10ヶ月を経て、“私は特定の人種に限られず、世界中の様々なバックグラウンドの人と働きたいんだ”という確信に変わりました。そんな確信をもとに、帰国後は、海外で働くことを目標に就職活動を進めています。

最後に、イギリスでの10ヶ月間は、間違いなく、私のこれからの人生に大きな影響をもたらし続けると思います。同時に、人生の中での”一番”、つまり過去の栄光になるのではなく、「あのイギリス留学があったからこそ、今さらに充実した人生を送れている」と言えるように、自分自身をアップデートし続けたいです。

